

令和2年4月6日

## オプトアウト文書

### 「児童相談対応アプリケーションの社会実装に係る導入効果の研究」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所（以下「産総研」。）人工知能研究センター 高岡昂太主任研究員（愛育研究所 客員研究員）は、以下に関する研究を行っております。本研究は、産総研人間工学実験事前申請、及び愛育研究所 倫理審査委員会の承認を得ております。なお、本研究は、NEDO「人と相互理解できる人工知能」、産総研領域内公募の研究助成を受けております。

#### 1：はじめに

児童虐待の児童相談所への通告件数はこの20年で20倍近くに達し、虐待死亡事例も後を絶ちません。しかしながら、児童相談所などの職員は異動や退職が多く、児童虐待対応に対する専門的な知見の蓄積が難しい状況です。判断の質の向上、業務効率化、そして人材育成のためにAIを活用し、人の知見とデータに基

づくより効果の高い判断が現場では求められています。産総研では、これまで開発した児童虐待対応用 AI の成果を社会実装する実証実験を三重県で行います。

## 2：研究目的・方法

申請者が開発した虐待対応支援総合アプリケーションを 1 自治体の児童相談所に導入し、その導入効果について検証を行います。

## 3：研究期間

倫理委員会承認日より、令和 2 年 6 月 30 日まで

## 4：研究対象

1 自治体児童相談所 2 カ所の児童福祉司・児童心理司 20 名及び関連する同一組織の職員

## 5：データ収集項目概要

アプリケーションを利用している職員のデータ及びアプリケーションを利用し

た事例の意思決定の判断等の日時データ、再発率を定量的なプライマリアウトカムとする。アプリケーションの使い勝手 (UI/UX) については、ヒアリングを3ヶ月に一度程度行い、使用に関する満足度、業務フローの変化などについて明らかにする。

## 6：個人情報の管理

研究協力者には事前に同意を取得する。また、機密事項については、当該自治体の情報セキュリティポリシー、及び改正個人情報保護法、個人情報保護条例を遵守する。

## 7：期待される成果

本研究により、アプリケーションの導入が有する児童相談対応への定量/定性的な効果が明らかとなる。後続する技術開発と導入への取り組みに対して、判断の質の向上、業務効率化、改善すべき点の知見などの基礎知見を提供することが可能となる。

8：相談窓口

〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-7

産業技術総合研究所 臨海副都心センター 別館（バイオ・IT 棟）産業技術総合

研究所人工知能研究センター確率モデリング研究チーム 主任研究員

母子愛育会愛育研究所 客員研究員

高岡昂太

TEL：03-3599-8914（事務 宮本）